

Fialetti, Odoardo

De gli habiti delle religioni con le armi, e breue description loro.

Venetia, Marco Sadeler, 1626. 3 parties in 1. illus. (copper mono.). 22×15cm.

〈K383. 13-F〉 文献番号 5-2

Hiler p. 313 Colas 1060 Lipper. 1855

フィアレッティ, オドアルド『さまざまな修道会の僧服』



本書には、標題紙、3ページにわたるテキスト、「宗教の寓意像」(裸婦像で頭部は描かれていない)に続いてさまざまな修道会の男子の僧服(72図)が収められている。「宗教の寓意像」(下図)は裸婦の姿で、頭部はわずかに点線で輪郭が示されているだけである。左頁にイタリア語の解説文、右頁にそれに対応する図版が刷られており、見開きで一組となっている。標題紙、テキストのページ、図像など、すべての頁が銅版画(エッチング)で刷られており、活字で印刷されている部分はない。銅版画は通常、紙面の片面にしか刷られないことが多いが、本書では両面に刷られている。文化女子大学所蔵本では、各図とも濃いプレートトーンとともに繊細なエッチングの線の表現が非常によく刷り取られており、初期の優れた刷りと判断できる。

オドアルド・フィアレッティ(1573-1638)はポローニャ生まれの画家・版画家。最初の絵画修業を生地のジヴァンニ・バッティスタ・クレモニーニのもとで行い、ローマを経てヴェネツィアのティントレットの弟子となり、強い影響を受けた。また同時にカラッチの影響も指摘されている。版画はもっぱらエッチングの作品で、バルチュは243点を彼の作品としており、その多くが図書の挿絵や連作として制作されたものである。師のティントレット他、多くの画家の絵画を版画化したほか、すぐれたデッサン家としての特質をいかしたオリジナルのエッチングを多数制作した。(佐川)

